

プログラム番号	06001
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	北海道大学 獣医学研究科		
②学長名	総長 中村睦男		
③所在地	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	獣医学研究科 講師 (留学生担当)	
	担当者氏名	野中成晃	e-mailアドレス kyomu@vetmed.hokudai.ac.jp
	電話・FAX番号	電話：011-706-5196 FAX：011-706-5190	
⑤ホームページURL	http://www.hokudai.ac.jp/veteri/		
⑥大学院在学留学生数	563 人 (うち、国費留学生 214 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	国際獣医学ネットワーク形成に向けた研究者養成プログラム
②プログラムの形態	博士課程 (一貫制) (4年間)
③実施研究科・専攻	獣医学 研究科 獣医学 専攻
	(所在地) 札幌市北区北18条西9丁目
④連携大学・研究科・専攻名	
⑤受入れ学生数	4 人 (うち研究留学生優先配置人数： 4 人) (うち日本人学生数： 0 人)
⑥担当教員数	合計 46 人 (うち専任： 人、兼担：46人、非常勤： 人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名：北海道大学大学院獣医学研究科・獣医学研究科長・教授
	研究科長名：梅村孝司

【3. プログラムの内容】

○はじめに

現在、獣医学領域は、国境を越えた問題、すなわち、鳥インフルエンザや BSE などの人獣共通感染症、および口蹄疫などの海外伝染病侵入といった問題に直面している。そのため、海外諸国との協力・研究が増加してきており、獣医学教育のグローバル化が必要不可欠となっている。北海道大学獣医学研究科は、平成18年度から人獣共通感染症リサーチセンターを協力講座として取り入れることで、今後益々増加することが予想される留学希望外国人への人獣共通感染症に対する強力な教育体制が、ここに結実した。

本特別プログラムは、ただ単に留学希望外国人に留学の門戸を与えるのみでなく、各国の最前線で活躍できる専門家を多数養成し、共同研究のカウンターパートとして研究のフォローアップ、スキルアップを図ることを目的としている。

○プログラムの特色

既存の獣医学研究科施設に北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター(平成19年度8月完成予定)を加えれば、国内でも有数のバイオセーフティーレベル3設備が整った研究環境が整備される。本組織では、獣医学、医学、理学、情報科学などの研究者を結集して、分野横断的プログラムを組み、一般課程とは異なった目的志向、達成目標の明確な教育が行われる。本プログラムで学位を取得した留学生によって、母国からの情報発信と共同研究体制構築が可能となり、国際獣医学ネットワークが形成される。

本研究科には留学生相談室に専属講師が配置されており、留学生のカウンセリングを行うほか、各種懇談会や異文化体験研修など企画して、留学生のサポートに努めている。したがって、留学生相談室を通して、留学生側の本プログラムに対する評価、希望等を随時反映させることができる。

○教育・指導体制

1) 教員組織

獣医学研究科は、6大講座と家畜病院からなる。講座名と教員数の詳細は以下の通りである。比較形態機能学講座(教員9名)、動物疾病制御学講座(教員11名)、診断治療学講座(教員11名)、環境獣医科学講座(教員10名)、プリオン病学講座(教員2名)、人獣共通感染症学講座(教員10名)、家畜病院(教員1名)(平成18年6月1日現在)

2) 教育体制

学位習得のため、必修科目26単位、選択科目4単位以上、合計30単位以上を必要とする。留学生に配慮し、英語による授業が開講されている。ただし、入学後、我が国における日常生活を行うに足る日本語能力が必要であるため、少なくとも半年間は日本語研修を行う。

3) 論文指導体制

指導教員が学位論文に関わる研究全体を指導する。大学院生は博士論文発表会にて研究成果を発表し、学位論文審査会(指導教員1名、副指導教員3名)にて審査を受ける。これら発表会、質疑応答、審査会は全て英語によって行うことが可能である。審査基準は極めて明確であり、筆頭著者の学術論文2編以上がレフリー制度のある国際誌に受理された後でなければ、博士学位論文の提出はできない。

○募集対象国、学内選考方法

1) 募集対象国

獣医学研究科とその協力講座である「人獣共通感染症リサーチセンター」の研究内容について、十分な

理解と興味を持つ個人であれば対象国は特に設定しない。

2) 学内選考方法

海外の研究者、教員等の人的ネットワークを活用し、指導予定教員が成績や人物の事前評価を行い、国費留学生の応募条件(成績等)を十分に満たすと判断された候補者に、本特別プログラムに応募してもらう。選考は研究科国際交流委員会が中心に書類審査を行い、その後、研究科教授会を開催し、合格者を決定する。入学は10月である。詳細は北海道大学獣医学研究科ホームページを参照すること。

○本プログラム修了後のメリット

1) 修了後の進路

本研究科の外国人修了生は、出身国の国立及び民間の大学や研究所、政府機関に就職するものが多く、また、その一部は本研究科に博士研究員として残るものもある。今後もその傾向は続くものと思われる。今後は、WHO や OIE など国際機関に進むものも出てくると考えられる。

2) 修了者に期待できる効果

現在でも、外国人卒業生の受け入れ大学あるいは研究所と多くの共同研究を実施してきたが、本プログラム修了者に対しても、同様の成果が期待できる。さらに、修了生と共同して、海外伝染病の監視や、国際化・多様化する新興再興感染症対策のための国際ネットワークの構築につなげることが可能となる。加えて、博士研究員として本研究科に残ったものは、研究科の日本人大学院生及び外国人留学生の教育に大きく貢献する。

3) フォローアップ体制

修了後の海外共同研究を通して卒後教育や情報交換が行えるほか、各種プログラムのポスドク制度や短期招聘制度を利用して、博士研究員や短期研究員として再留学の道がある。さらに、本プログラム修了生と研究科あるいは修了生相互の情報発信のためのネットワークを形成し、次代の獣医学研究者の養成を円滑に行うことが可能となる。

